

2025年(令和7年)夏季(7月)物部川下流域におけるアユの生息状況 ~概要版~

1. 目的

アユのモニタリング調査の一環として2025年夏季におけるアユの生息数を把握。加えて、盛夏の高水温化の実態把握とその特性を検討。

2. 生息状況調査日・気象状況(図1)

- 夏季調査は7月11-12日に実施。
- 5~6月の雨量は多く、特に6月9~15日の降雨により、高濁度・低水温の出水が発生。
- 7月中旬にも同規模の出水が発生するも、水温は20℃以上。
- 7月下旬以降に水温が急上昇し、8月上旬に水温調査を実施。

3. 生息状況調査結果(図2~4)

- 総生息数は約28万尾で(昨年の2.5倍)、近年の標準的な生息数。
- 中流区間(Ⅲ区)に約4割のアユが分布し、下流部(I-II区)は約3割。
- 統合堰上流の生息数は約1.5万尾(5%)。
- 生息密度は統合堰下流(地点28)が突出して高く、水叩き部に小型アユが集積。
- 主要漁場(瀬)の生息密度は0.6~0.9尾/m²の範囲にあり分布状況に顕著な偏りなし。
- 統合堰から上流の密度は総じて低いが、合同堰上流(佐野巻)でも0.25尾/m²のアユを確認。

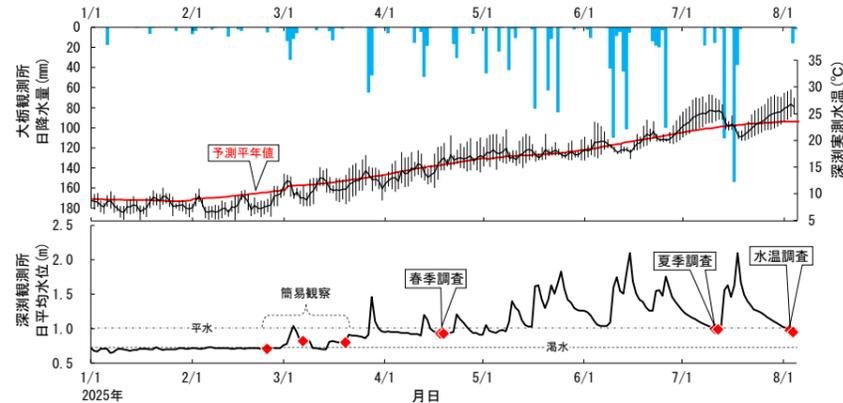


図1 今年の降水量、水位、水温

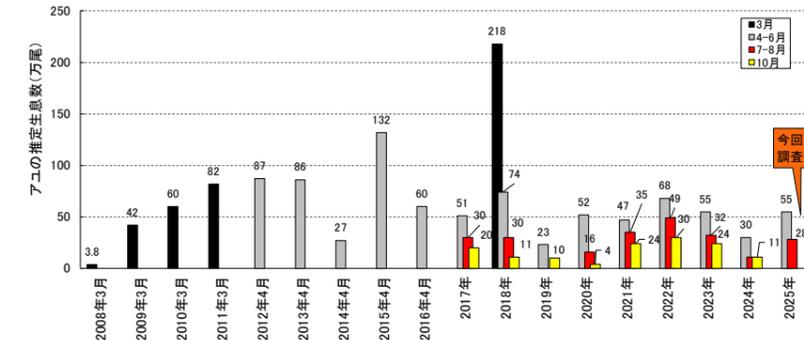


図2 アユの推定生息尾数

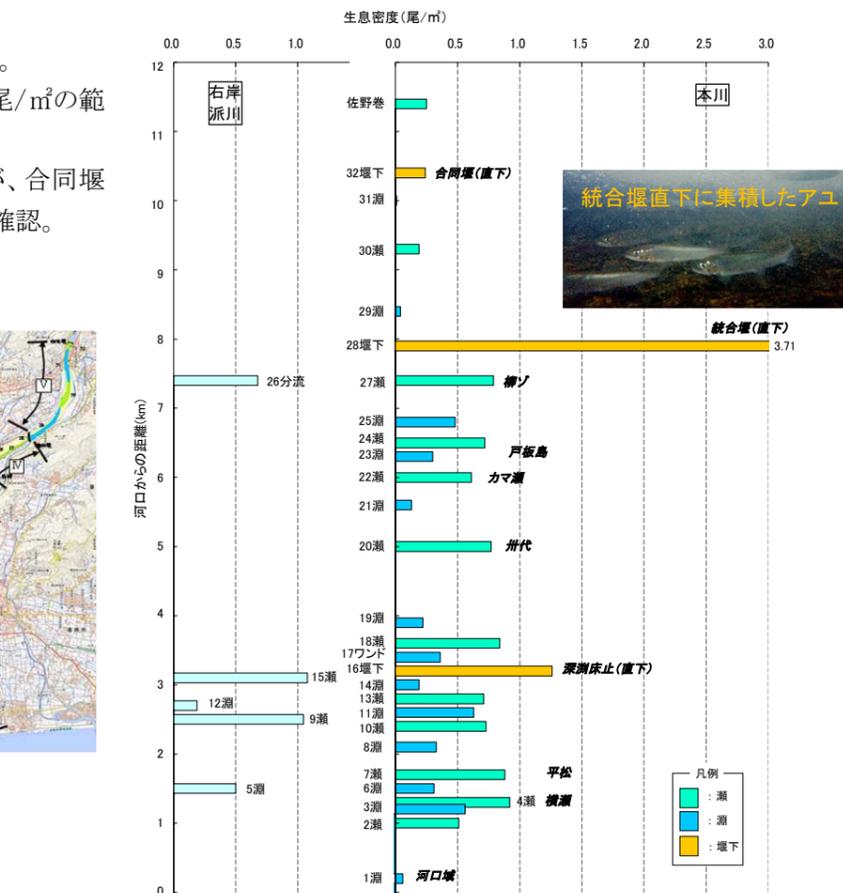


図4 アユの生息密度

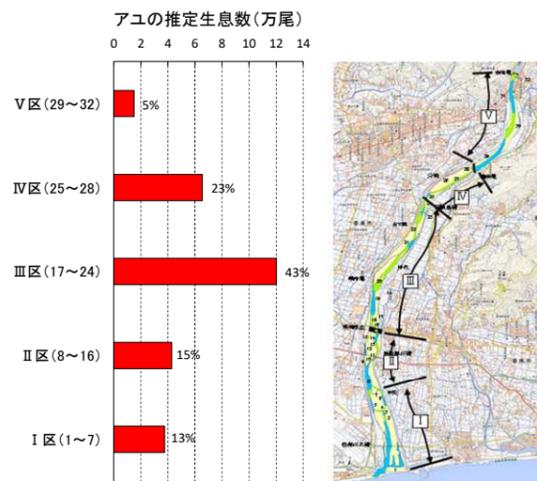


図3 アユの区間別生息尾数

4. 水温調査結果(図5~7)

- データロガーにより深淵床止地点の毎正時水温を観測。
- 期間中の水温は水位に低下とともに上昇し、最高値は29.4℃(8月3日16時)。
- 曇天(8/4)でも砂州上浅所の水温は流心付近に比べ高く、当傾向は晴天の既往調査時と同様。
- 水温の縦断変化を把握するため、統合堰下流7地点の流心水温を測定。
- 流心水温は上流から深淵床止地点まで上昇し、ここから下流に向けて低下。
- この縦断変化傾向は既往調査でも確認され、下流部での水温低下には伏流水の湧出が関与。
- 8月3日(水温27.8~28.8℃)に観察したアユの生息密度は7月中旬調査時と大差なく、行動に異変なし。

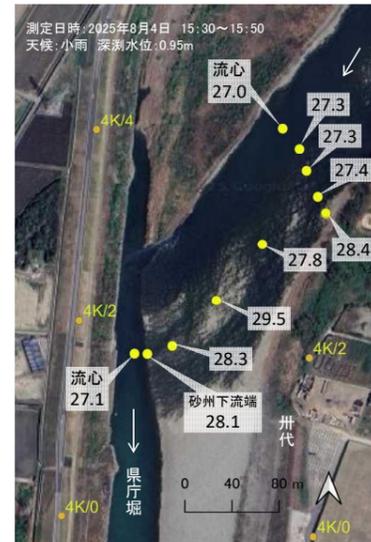


図6 井代地先における水温分布

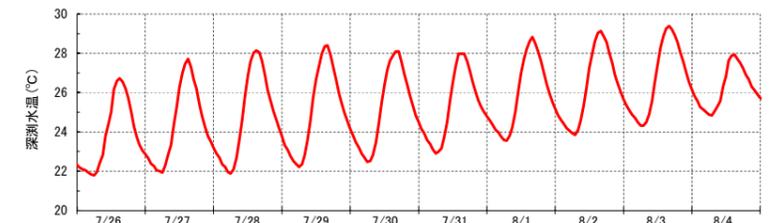


図5 深淵床止地点の水温の経時変化

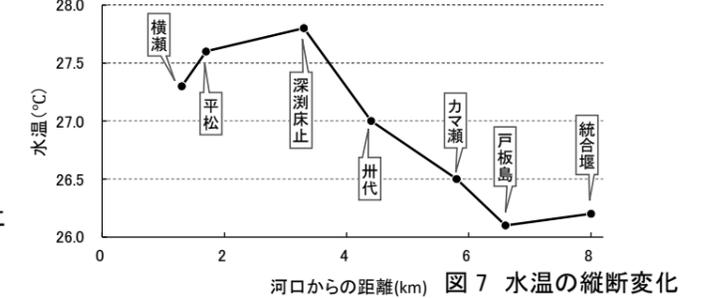


図7 水温の縦断変化

5. まとめ(図8~11)

- 今年の春季-夏季間のアユ減耗率は49%で、近年の物部川では夏季までに半減する変動が常態化しつつある。
- 今年は6月中旬の出水による高濁度・低水温が減耗の主要因と推察。
- 当出水前後に採捕されたアユの体長組成の対比から、主として大型個体が減耗したと判断。
- 深淵床止地点の日最高水温と、各種気象データおよび深淵観測所流量との相関分析から、重回帰式を求め、日最高水温と流量との関係を検証。
- 高温状態にあった昨年8月2~18日の水温を流量4m³/s増で推定すると、平均で約2℃低下。
- 流量が8m³/s以上あれば、夏季河川水温は30℃を超えない。

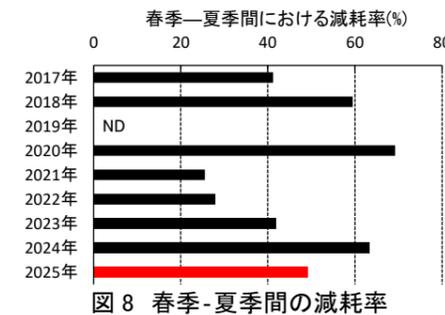


図8 春季-夏季間の減耗率

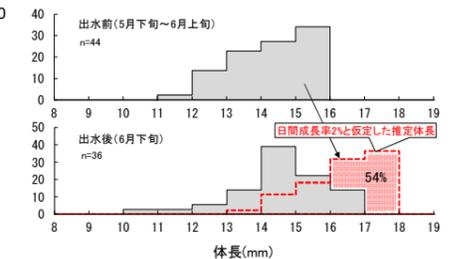


図9 出水前後の体長組成

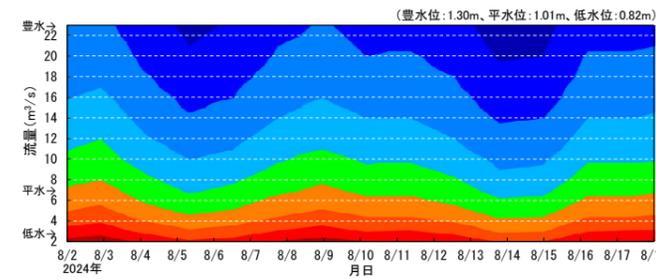


図10 河川流量と日最高水温との関係

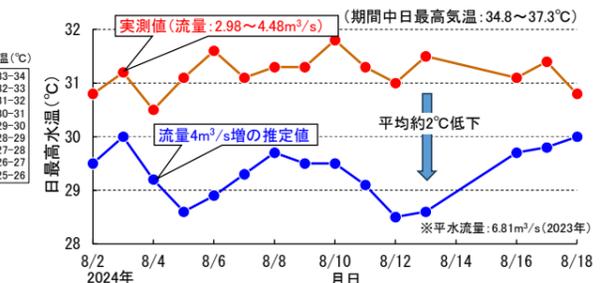


図11 流量4m³/s増による日最高水温の変化